

## 平成28年度第1回千葉市こども未来局指定管理者選定評価委員会議事録

1 日時：平成28年5月30日（月） 午前10時00分～午前12時00分

2 場所：千葉市議会（千葉市役所議会棟）第2委員会室

3 出席者：

(1) 委員

岩切 裕委員（会長）、鶴見 泰委員（副会長）、小栗 一徳委員、田原 洋子委員、  
松崎 洋子委員

(2) 事務局

【こども未来局】 佐々木こども未来部長

【こども未来部こども企画課】 始関課長

【こども未来部幼保支援課】 内山課長

4 議題：

(1) 指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価及び総合評価について

ア 「千葉市子ども交流館」について

イ 「千葉市子育て支援館」について

(2) 今後の予定について

5 議事の概要：

(1) 指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価及び総合評価について

ア 「千葉市子ども交流館」について

まず、平成27年度の「指定管理者評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、委員会としての意見を取りまとめ、決定した。

次に、過年度の評価結果等を踏まえ作成した「指定管理者総合評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、事務局案を承認するとともに、次期指定管理者の選定に向けた意見を、委員会として取りまとめ、決定した。

イ 「千葉市子育て支援館」について

まず、平成27年度の「指定管理者評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、委員会としての意見を取りまとめ、決定した。

次に、過年度の評価結果等を踏まえ作成した「指定管理者総合評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、事務局案を承認するとともに、次期指定管理者の選定に向けた意見を、委員会として取りまとめ、決定した。

(2) 今後の予定について

次期指定管理者の選定に向けた今後の審議スケジュールについて、事務局から説明した。

**6 会議の経過：**

○事務局 それでは、定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。それでは、これより平成28年度第1回こども未来局指定管理者選定評価委員会を開会させていただきます。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきますこども企画課の田中と申します。よろしくお願いたします。

本日は、委員の皆様全員に御出席いただいておりますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第10条第2項の規定により、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

また、当会議は公開となりますので、重ねて御報告をいたします。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。机上に議事次第、席次表、今後の予定についてというA4の3枚のクリップどめものを御用意しております。それから、A3で資料の2-2、2-6、3-2、3-6という評価シートになりますけれども、こちらは事前にお配りしております青いファイルの内容の評価シートをA3に拡大したものとなっておりますので、本日はこのA3のものをごらんいただければと思います。それから、事前にお配りしております青いファイルの配付資料、黄色いファイルの参考資料、これが本日の資料になりますが、不足されている方はいらっしゃるでしょうか。

それでは、開会に当たりまして、こども未来局こども未来部長の佐々木より御挨拶を申し上げます。

○佐々木こども未来部長 おはようございます。ただいま御紹介いただきましたこども未来部長の佐々木でございます。本日は大変お忙しい中、またあいにくの天候の中、お足元の悪い中、御出席をいただきましてまことにありがとうございます。皆様におかれましては、本委員会も含めまして、日ごろより市政各般にわたり多大なる御支援、御協力をいただいておりますことを、この場をおかりいたしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、本日ですけれども、子ども交流館及び子育て支援館について、指定管理者が行った施設の管理に係る年度評価、そして総合評価について御審議をいただくこととなっております。通常ですと、昨年度のように年度評価について御審議いただくわけでありまけれども、両施設の指定管理者の指定期間が平成29年3月31日となっておりますことから、今年度につきましては、総合評価につきましても御審議いただくこととしております。

また、次期指定管理者の選定に向けまして、今年度は大変重要な年度となります。後ほど詳細につきましては担当より御説明を申し上げますけれども、御審議いただく回数

につきましても、本日を含めまして今年度4回の開催を予定しております。この2つの施設につきましては、子どもの居場所として、また地域の子育て支援拠点施設といたしまして重要な役割を担った施設でございます。

委員の皆様におかれましては、施設の運営、管理あるいは財務状況等について専門的なお立場から忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げて、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくどうぞお願いいたします。

○事務局 続きまして、委員の方の紹介ですが、お手元に配付してございます青いファイルの中にごございます資料1の委員名簿をごらんください。前回の委員会から変更はございませんので、こちらの委員名簿により御紹介にかえさせていただきます。

事務局職員の紹介につきましては、お手元の席次表の配付によりかえさせていただきます。

それでは、以降の議事進行につきましては、岩切会長にお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

○岩切会長 委員の皆さん、おはようございます。御無沙汰しておりますが、本日、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして議事を進行してまいります。

議題(1)の「指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価及び総合評価について」に入らせていただきます。

まず、年度評価及び総合評価の概要につきまして、事務局より御説明願います。

○始関こども企画課長 こども企画課の始関でございます。どうぞよろしくお願いいたします。座って御説明をさせていただきます。

それではまず、指定管理者選定評価委員会による指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価の概要について御説明をさせていただきます。

まず、評価の目的でございますが、指定期間中の各年度の終了後に履行状況の確認を行い、選定評価委員会へ報告することによって、委員の皆様からの御意見をいただく機会を設け、次年度以降の管理運営をより適正に行うため実施するものでございます。

次に、評価の方法でございますが、まず、市が現地視察、ヒアリング等を通じて行ったモニタリングの結果や指定管理者による自己評価、指定管理者からの報告書等を踏まえ、指定管理者評価シート、いわゆる年度評価シートを作成いたします。

本日お手元にA3に拡大したものをお配りしてございます。そちらをごらんください。指定管理者評価シートの内容について御説明をさせていただきます。

評価シートは、大きく6つの項目で構成されております。まず、網かけの部分になりますが、初めに、基本情報として、施設名、指定管理者、指定期間などを記載してございます。2つ目に、管理運営の実績として、主な実施事業や利用状況、収支状況などを記載してございます。ページをおめくりいただきまして、3つ目に、利用者ニーズ・満足度等の把握として、指定管理者が行ったアンケート調査の結果など。4つ目に、指定管理者による自己評価。次のページになりますけれども、5つ目に、委員の皆様からの御意見をいただくに当たってポイントとなります市による評価と、評価に当たって、募

集要項、管理運営の基準、基本協定書、提案書で定められている仕様のうち、市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理や市民サービスの向上、ページをおめぐりいただきまして、施設の効用の発揮、施設管理能力、管理経費の縮減など、市による各年度で確認が必要な項目を記載してございます。

これらの個別項目につきまして、履行状況を確認し、その結果を3段階で評価しております。仕様、提案を上回る実績・成果があった場合は3を、仕様、提案どおりの実績・成果だった場合は2を、仕様、提案どおりの管理運営が行われなかった場合は1と、3段階の評価をしてございます。その結果を踏まえまして、市による評価では、仕様、計画を超える実績・成果が認められるなど、管理運営が特に良好に行われていた場合はSを、おおむね仕様、計画どおりの場合はAを、仕様、計画どおりの実績・成果が認められず、管理運営に関して改善を要する事項があった場合はBとし、こちらも3段階で評価をしてございます。

最後に、表の一番下に、当委員会からの答申としていただいた御意見を掲載いたします。こども未来局指定管理者選定評価委員会の意見となっております。

以上により、市で作成した指定管理者評価シートと指定管理者から提出された事業報告書、計算書類等の資料をもとに、選定評価委員会より、当該指定管理者による施設管理運営のサービス水準の向上、業務効率化の方策、改善を要する点や指定管理者の倒産、撤退のリスクを把握するため、当該指定管理者の財務状況などに対する御意見をいただくものでございます。

最終的に、当委員会としての意見を取りまとめていただきまして、委員会会長より市に対し、答申をしていただくこととなります。なお、答申でいただきました御意見につきましては、先ほど御説明したとおり、評価シートの6、こども未来局指定管理者選定評価委員会の意見の欄に記載をさせていただきます。

また、評価結果の取り扱いでございますが、指定管理者による管理運営の改善、効率化に向けた取り組みを促進するため、当該指定管理者に通知をさせていただきますとともに、選定評価委員会の御意見を記載した年度評価シートを市ホームページ上で公開させていただきます。

続きまして、指定管理者の行った施設の管理に係る総合評価の概要について御説明いたします。こちらもお手元のA3に拡大したものをごらんいただければと思います。

まず総合評価とは、各年度において実施いたしました年度評価を踏まえ、指定期間の最終年度におきまして、指定管理者選定評価委員会にて行うものでございまして、現指定管理者の管理業務の総括のための評価を行うとともに、次期指定管理者の選定に向けての御意見を頂戴するものでございます。

次に、評価の進め方でございますが、まず、過年度の評価結果等を踏まえ作成いたしました指定管理者総合評価シート事務局案について施設所管課より御説明させていただき、委員の皆様には、その総合評価について評価の妥当性を御審議いただくとともに、サービス水準の向上、あるいは業務の効率化などの観点から次期指定管理者の選定に向けての御意見をいただきたいと考えております。

説明は以上でございます。

○岩切会長 ありがとうございます。

今、説明がございましたけれども、何か質問はございますか。大丈夫ですか。

それではまず、千葉市子ども交流館の年度評価から進めたいと思います。所管課より説明をお願いいたします。

○始関こども企画課長 続いて、よろしく願いいたします。座って説明をさせていただきます。

まず、お手元にお配りしてございます年度評価を見ていただければと思います。初めに、基本情報についてでございますが、施設名は千葉市子ども交流館でございます。この子ども交流館は、子どもの健全な遊びと居場所の提供を主な目的とした大型児童館の機能を有する施設となっております。指定管理者は、24年度から引き続きアクティオ株式会社となっております。この指定管理者は、現在、全国の自治体で数多くの指定管理業務を行っている事業者でございます。

続きまして、2の管理運営の実績についてでございますが、まず主な実施事業ですが、指定管理事業として施設の管理運営のほか、時期に合わせた各種講座や教室、イベント等の開催などを実施しております。また、指定管理者が自主的に行います自主事業といたしまして、受託事業以外の講座、教室、音楽スタジオを活用したミュージックレッスン等を開催してございます。講座、教室のうち、わくわく運動遊び、わくわくリトミックは、平日の午前の比較的に利用者が少ない時間帯の対策として、実施回数を増やし、参加者がそれぞれ26年度の約3倍程度と大幅に増加しております。

次に、利用状況をごらんください。利用者数は15万1,017人となっております。利用者数につきましては、前期指定期間の最高入場者数であった12万7,000人の20%アップと高い目標値を掲げ、これまで達成しておりませんでした。今回初めて目標値を3,571人上回りまして、達成率102.4%となっております。前年度と比較し1万3,465人増加し、2年連続で過去最高の記録を達成し成果を上げております。

その下の登録者数でございますが、新規利用登録者数は、前年度と比較し1,326人増加し1万5,254人で、対前年度比109.5%と増加しております。しかしながら、今後も中高生など、新たな利用者の獲得を促進し、広くサービス提供していく必要があると考えております。

次に、収支状況をごらんください。昨年、備考欄に詳細を記載するよという御指摘をいただきましたので、ちょっと見づらいですが、記載をさせていただいております。まず、収入実績のうち自主事業でございますが、ボーカルレッスンやドラムレッスンなどで利用者数が計画より少なく、計画比97.7%と計画額を3万5,000円ほど下回っております。その他でございますが、受託事業の参加費等の収入となりますが、なかよレクキングなどで材料費等の変動により、実費徴収としております参加費が計画より高くなり、計画比107.4%、2万8,000円の増となっております。全体といたしましては計画額とほぼ同額で、決算額は計画額を7,000円減の9,645万9,000円でございます。

次に、支出の実績でございますが、まず人件費の決算額では、計画比104.5%と計画額

を238万2,000円上回っております。これは1つに、夏休み期間の来館者数が増加し、安全管理のためアルバイトスタッフの配置を2名増やし、その経費として増えたものでございます。2つに、常勤職員の有給取得による非常勤職員の代替勤務の増額として71万6,000円、3つに、千葉市が実施するこどもの参画推進事業のうちこどものまちC B Tの事業への協力並びに本年4月から県が導入いたしました県内施設の予約システムへ参画するための業務増によりまして55万9,000円となっております。次に、事務費でございますが、人件費の売上消費税相当額で増となっておりますが、事務費の全体といたしましては、本社経費となります一般管理費並びに事務経費等の減により、決算額は計画比96.7%と、計画額から137万2,000円の縮減が図られております。次に、管理費でございますが、バスケットゴールやワイヤレススピーカーなどの修繕経費で、計画比60.6%、8万5,000円の減となっております。支出の実績といたしましては、計画比101%、95万円増の9,741万6,000円となっております、おおむね計画どおりとなっております。

全体の収支実績は95万7,000円のマイナスとなっており、昨年度のマイナス247万2,000円から赤字幅が圧縮されておりますが、依然赤字となっておりますので、引き続き改善が求められる状況でございます。

その下の(4)指定管理者が行った処分の件数についてですが、施設の使用許可を1,614件実施しております。内容は昨年と同様で音楽スタジオが8割を超えておりまして1,384件、続いて多目的室、アリーナ、調理室、工房と続けております。

次に、市への不服申し立てについての実績はございません。

裏面をごらんいただきまして、(6)の情報公開の状況につきまして、文書開示の申し出が市政情報室経由で1件ございました。これは、例年ございます今期の指定管理者公募時の事業提案書類について開示を求められたものでございます。

次に、利用者ニーズ・満足度等の把握についてでございます。まず指定管理者が行ったアンケート調査の結果でございますが、①のアンケート調査の実施内容でございますように、子ども交流館では、通年入り口に設置しておりますボックスにて受理する利用者アンケート、このほか特定のイベント開催時に実施しております特別アンケート、それから外部機関に委託し、実施するC Sモニタリングの3つを実施しております。

②の調査結果では、楽しかった、また来たいといったおおむね好意的な評価をいただいておりますが、そのほかアリーナのバスケットボールの時間を長くしてほしいなど、施設の利用に関する要望やスタッフの対応に関する不満で、注意を減らしてほしいといった御意見、それからほかの利用者のマナーに関する対応を求める御意見などをいただいております。こういった点につきましては、さらなる声かけを徹底してまいりたいと思っております。

アンケートにより得られた主な意見、苦情と、それへの対応について、幾つか御紹介させていただきます。黒丸の2つ目でございますが、図書コーナーのマンガを増やしてほしい、マンガは必要なのかといった御意見をいただきました。これにつきましては、限られた予算の中で可能な限り要望に応えられるよう努力します、マンガを含め本に親しんでもらいたいと思っておりますと回答をしております。また、一番下の黒丸でご

ございますが、注意を減らしてほしいといった御意見をいただいております。これにつきましては、皆さんに気持ちよく利用していただけるよう努めておりますが、ほかのお客様に迷惑がかかるような行為の場合は、やむを得ず注意をしておりますと回答させていただいております。なお、いただいた御意見につきましては、ロビーに設置したボードに掲示し、御理解をいただくとともに、サービスの向上に努めております。

次の(2)の市に寄せられた苦情や意見につきましては、市長への手紙が1件ございました。これにつきましては、音楽スタジオでバンド練習をしている方の保護者の方より、大学生では使用できないのかという御質問をいただきました。これにつきましては、当館の施設が18歳未満を利用対象者とした施設であることを御説明し、御理解をいただいております。

次に、一番下段の指定管理者の自己評価でございます。黒丸の1つ目でございますが、来館者数は目標値を約3,500人上回り、大変よい結果になった。特に未就学児、小学生の利用者の増加により、将来的なリピート利用を考えると望ましい傾向である。また、黒丸の3つ目になりますが、広報活動として、新たに市内の全図書館等にイベントチラシを配架するとともに、全小中学校に配布される生涯学習センターの広報誌に記事を掲載し、来館者数の増加につながった。最後に、平日の比較的利用の少ない午前の時間帯対策として、わくわくリズムの対象年齢をベビークラスとキッズクラスに変更し、利用者にも大変好評を得て、大幅な利用者数の伸びにつながったといったような肯定的な評価をしております。

次のページをごらんいただきたいと思っております。市による評価でございますが、S、A、Bの3段階の評価の中間のA評価としてでございます。指定管理業務について適正に実施され、来館者数の増加を図るなど、一定の評価はできるものの、改善しているとはいえ、収支がマイナスであり、改善点もあることから、A評価とさせていただきました。

所見について6つほど挙げさせていただいております。黒丸の1つ目でございますが、まず何といたっても来館者数が目標を達成し、過去最大の人数となった点。それから1つ飛ばしまして、開館時の登録者第1号の子どもが、現在、高校生になっておりまして、その子どもが子ども運営委員として活動しておりまして、交流館が子どもたちにとって居心地のいい居場所になっているという点。3つ目に、比較的利用者が少ない平日の午前中の時間帯の対策として、事業の見直しを行いまして利用者へのサービスの向上を図るとともに、来館者数を増加させた点。4つ目に、本市の主要施策でございますこともの参画推進事業についての協力体制が十分とられ、大いに貢献している点。最後に、黒丸の2つ目になりますが、収支実績について、前年度より改善は見せているものの、依然としてマイナスであり、さらなる改善が必要である点。以上が市による評価についての所見でございます。

その下に個別の評価をしておりますが、先ほど申し上げたとおり、1が計画どおりの実績を上げていない項目、2が計画どおり、3が計画を上回る項目でございます。項目数も多いので、昨年度と評価が変わった項目及び3と1をつけた項目について御説明させていただきます。

まず、(1)市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理におきましては、昨年同様に計画どおりの運営がなされていることから2の評価を与えております。

次に、中段(2)市民サービスの向上の中項目、健全育成が目的の講座等の開催の下から3つ目、幼稚園等の児童交流促進でございますが、こちらにつきましては、昨年度は計画4回のところ1回の実績となっております、1の評価をさせていただいておりますが、27年度につきましては計画どおりの実施回数に改善しており、2の評価とさせていただきます。

次に、中項目、下から2つ目、子どもの健全育成の啓発事業の子育てふれ愛フェスタでございますが、こちらにつきましては内容を見直し、過去最高の参加者数としたことから、昨年度3の評価としておりましたが、本年度は昨年と同様の参加者数であったことから、2の評価とさせていただきます。

次のページをごらんください。1番上の中項目、利用促進の方策のパンフレット等の作成・配布でございますが、新たに全小中学校に配布されるまなびの森への記事の掲載や市内の全図書館等へのチラシの配架により周知を図ったことから、昨年同様3をつけてございます。

次に、中項目、自主事業の効果的な実施の親子のコミュニケーションクッキング、わくわく運動遊び、2つ飛ばしまして、わくわくりトミックの3つにつきましては、計画を上回る実施や午前中の時間帯対策として、内容を見直し実施し、利用者数の増加につながったことから、昨年度2点から3点をつけさせていただいております。また、一番下の連携事業につきましては、昨年、東京ガスとの連携により事業を実施し、今年度は千葉銀行との連携事業により多くの参加者数を得たことから、昨年に引き続き3の評価をしております。そして、同中項目の上から3つ目、ジャズダンス教室でございますが、参加者数が昨年度と比較し減少しておりますことから、評価を2から1へとさせていただいております。

最後に、ページ中段、職員の配置等の一番上、常勤職員の半数が児童の遊びを指導する者の欄でございますが、本市の管理運営の基準では半数以上としているところ、常勤12人全てが有資格者であることから、昨年同様の3の評価をさせていただいております。

したがいまして、48項目、満点で144点のところ、合計で101点、平均で2.1点のため、A評価、おおむね計画どおり良好な管理運営が行われたとの評価とさせていただきます。

以上が市による子ども交流館の年度評価でございます。よろしくお願いいたします。

○岩切会長 ありがとうございます。

ただいま事務局の説明がございましたけれども、委員の皆さん方から御質問、御意見などを伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。どなたからでも結構でございます。

○田原委員 利用状況が昨年よりもすごく増えているというのは、どこが一番増えているんですかね。

○始関こども企画課長 利用状況ですか。

○田原委員 利用状況が、15万1,000でしょう。昨年が13万7,000で、すごく増えているじ



やないですか。

- 始関子ども企画課長 27年度、来館者数も100万人を超えておりまして、イベント等を開催させていただいて、そういった形で徐々にリピーターも増えておりますので、そういったところで利用者数が上がったと思っております。
- 田原委員 特にここがというわけじゃないわけですね。これをやったから多くなったということではないと。
- 始関子ども企画課長 はい。これまでも指定管理者、事業者のほうでかなりいろんなところで、出前講座であったり、イベントのチラシの配架であったりを行って来ていて、その効果があらわれたものと考えております。
- 田原委員 余り効果が上がると、次年度が大変でしょうね。これより上回らないと評価をもらえないじゃないですか。
- 始関子ども企画課長 これまでもこの指定期間の中で、利用者数については年々増加を図ってきて、昨年度は過去最高値、そして初めて今年、かなり高い計画を上げた中で、それを上回る実績を上げておりますので、今年度につきましても何とかそれを維持できればと考えております。
- 小栗委員 先ほどの御説明で、最後に3をつけた、常勤職員の全員が児童指導員とか、免許所有者とかということで、そういう市が求める基準を超えるような資格者の配置が、人件費のコストアップになっているということはないでしょうか。
- 始関子ども企画課長 事業者とのヒアリングでは、そういった面というよりは、利用者も年々増加してきているので、見回り体制などの強化をかなり図っている、そういったところで人件費の部分でマイナスが出ていると聞いております。実際、前期の指定管理期間等では、施設の中で子どもたちが荷物をそのまま置いて遊びに行ってしまう盗難事件があったり、ぶつかって、けがをしてしまうこと等が多かったんですが、見守りを強化することによってその辺が、今では、ほとんど報告がなくなっておりますので、事業者のほうでその辺は頑張ってくれているのかなと考えております。
- 小栗委員 全員が資格を持っていなければ、本当に回せないのかどうか、そこら辺がちょっと見えなかったもので、質問させていただきました。
- 始関子ども企画課長 やはり何も経験のない方がいきなり子どもと接して何かできるかということ、なかなかできないというところでは、その辺でも来館者数の増加につながっているのかなと考えております。やっぱり子どもとの信頼関係ができて交流館に来ていただく、職員のほうも子どもたちに普通に声をかけて、子どもたちからも職員に対していろんな御意見をいただいたりというところが見えますので、そういったところでいくと、やはりある程度の資格を持った方がついていただくのがベストかなと考えております。ただ、一応仕様としては半数がそういった方を配置するというところで、事業者のほうでかなり頑張って配置をしてくれているところがございます。
- 田原委員 自主事業は少しマイナスになっていますよね。要するに参加者が少ないと参加費をもらえないという部分があるし、ジャズダンスみたいにあんなに少ないときには自主事業はマイナスになるということですよ。

- 始関こども企画課長 基本的に自主事業については委託料が充てられない形になっておりますので、実費相当額を徴収しているんですが、子どもの施設というところで考えますと、そうそう上げられるものではないので、その辺で事業者のほうが何とかやっているというところがございます。
- 田原委員 ジャズダンスの評価は1ということですが、何でこんなに少ない人数になったんでしょうね。
- 始関こども企画課長 ジャズダンスにつきましては、参加者数が前年度548人で、今年度が368人と減少しております。自主事業は、初心者クラスとして今年は実施してございます。同じ講師の方が貸し館の部分でスキルアップクラスというのをやっていて、そちらのほうに利用者のほうに移行しているというところで、今回ちょっと参加者数が減っていると聞いております。
- 田原委員 では、最初から初級者だよという募集をしたんでしょう。
- 始関こども企画課長 そうですね。
- 田原委員 にもかかわらず、上級のほうに行っちゃったということですか。
- 始関こども企画課長 スキルアップのクラスに移行される方が多かったと。自主事業については、今までも指定管理期間の中で、当初少なかったりというのがかなり見えて、少しずつ改善を図りながら、手を加えながら今実施しているところがございます。こちらについても今年度についてはその講師の方と少しお話をし、変えていかなければならないと考えてはおります。
- 岩切会長 そうしますと、先ほどの収支の件なんですが、全体的な会社の財務状況は、いかがでしょうか。
- 小栗委員 会社全体でいえば、特に問題はないと思います。
- 岩切会長 いつもそうですね。会社全体ではということですね。毎年この事業単体の収支は困難だということで、提出していただけない状況が続いておりますけれども、一応毎年意見を述べていますが、本年度はどういう意見をするか、検討しないといけないですね。
- ほかの委員さん方はどうでしょうか。
- 鶴見副会長 皆さん、もう既におっしゃっているところなんですけれども、利用者数の増加については非常に目覚ましい成果ですので、来年度以降もこれぐらいの人数を維持できればという意見と、あとは、収入と支出のバランスについてなんですけれども、来館者数が増えたということで、従業員数が増えるというのはわかりますので、収入と支出についてはバランスがとれるような実績をとっていただきたいという意見を述べさせていただきます。
- 以上です。
- 岩切会長 収支のバランスをとってほしいということですね。
- 鶴見副会長 はい。
- 松寄委員 利用者数が増えたのはとてもいいことだなと思うんですけれども、年齢が小さいお子さんたちが増えているということで、求められているニーズも今後変わる可能

性があります。自主事業を含めて新たなものをするとか、取捨選択をしていかないとまた定員割れになるようなこともあるかと思います。その辺を考えて事業計画を立てていただければと思います。

○**岩切会長** 今、小さいお子さんの利用が増えているのは大変結構なことだと思うんですけども、今までとは違う面もでてくるということでしょうかね。

○**田原委員** その小さいお子さんの件で、きょうも山の中に置きっ放しの事件がありましたけれど、この事業報告書の36ページの事件、事故、不審者対応のところに、保護者が未就学児の子どもを交流館に置きっ放したと書いてありますね。未就学児の児童を交流館に置きっ放しで買い物に行った人がいるというのが、保護者の御意見の中にあるんですよね。きょうテレビで捜索しているとやっていたけれど、あれを見ていなければこんなのは余り感じなかったかもしれないんだけど、もし万が一こういうこともあり得るかなというのがちょっと気になりました。置きっ放しにして買い物するということは、親は遊んでいる間に買い物に行っちゃったんですか。

○**始関こども企画課長** 基本的に交流館については預かる場所ではなくて、子どもたちが自由に遊ぶところなんですけれども、保護者の方の中には、何時に来るからねということ置いていかれてしまうケースもあります。

○**田原委員** そういうことはわからないですものね。

○**始関こども企画課長** そういった心配がありますので、これは必ずというわけではないんですが、今、入退館システムというシステムを導入しております。カードをかざすと音が出るものなんですけれども、子どもたちが利用するとき、それを通して、出るときにまた通すというシステムになっています。受付には必ずそこをやってきてねと見守る職員が配置されています。希望者には保護者の方に入退館の時間等をメールで知らせるシステムを導入して、保護者の方への通知はさせていただいているところですが、本来、未就学児ということだと保護者の同伴が必ず必要になるんですが、そこは保護者の方のモラルがちょっと低下しているのかなと。

○**田原委員** 低下していますよね。これは余談で、これと全然違うんですけども、私ども、子ども会のキャンプとかに行くじゃないですか。長期的な3泊4日とかになったときに、両親が外国に行っちゃって、子どもを私たちに預けてというのがあったんです。私たちが知らなかったです。子どもから話を聞いたら、親は外国に行っているのど。そういう親が今いますよ。預けていればいいという感じなんではないでしょうかね。

○**始関こども企画課長** 今の事業者さんは、自主事業の中で、例えばなかよしクッキングであったり、外へ出かける事業なんかも実施して、親子の関係を築いてくださいねと伝えるような事業も実は実施しております。そういったところで感じていただけるものが生まれればいいなどは考えております。

○**田原委員** 中学生の6人組って何ですか。36ページ、問題の行動というところに中学1年生6人組って書いてあります。ちょっと気になる言葉ですよね。

○**始関こども企画課長** 年度評価シートの中でも少し御説明しましたが、職員の対応が厳しいという御意見をいただいているところもあるんですけども、やはり施設の利用の

中で、マナーができていないお子さんたちもいらっしゃいますので、そういったところは目が届くようにしております。

○田原委員 この6人組が来たときはマークしているわけですか。

○始関こども企画課長 いや、特にそういうわけではありません、関係性の中で、そういった子どもたちにも声かけられるような関係性を築くように職員もやっていますので。

○田原委員 そうですね。悪いからって排除じゃないですね。

○始関こども企画課長 はい。絶対そういうことがないように、関係を築いた中で注意をしていくということです。

○田原委員 そのために多分いろんな資格を持った先生方がいらっしゃるんだと思いますので。

○始関こども企画課長 あとは外部機関とも連携を図りながら、ファミリー・サポート・センターであったり、学校との関係を築きながら対応はさせていただいているところがございます。

○田原委員 ありがとうございます。

○岩切会長 ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、毎年この年度評価については委員会としての意見を整理しなければいけないんですが、今私のほうでお聞きしてございまして、まず例年、市当局の評価が妥当かどうかということもあるわけですが、おおむね良好に管理運営が行われているという点では大丈夫なように思いますが、いかがでございませうか。

(各委員了承)

○岩切会長 皆さん方からもありましたが、来館者数が計画目標を達成して、過去最高人数になったということですが、昨年度これについて意見を申しておりましたので、これが大幅に改善されたということは、まず評価をしたいと思うんですが、これもよろしいでしょうか。

(各委員了承)

○岩切会長 登録者は、これで満足していいものかどうかというのは、私もちょっとまだ、一層努力してほしいと言いたい気持ちはあるんですが、皆さん、いかがですか。この辺で満足していいんでしょうか。

○田原委員 登録をしないと来ませんものね。

○岩切会長 そうですね。登録者というのはリピーターになるわけですよ。だから、常時利用してくれるお子さんたちということになるわけですから。

○田原委員 登録者数を一層努力してくださいみたいなのを入れなきゃいけないでしょうね。

○岩切会長 そうですね。何かもっと工夫をすれば。

○小栗委員 登録者というのは累積の登録者数でしょうか。

○始関こども企画課長 18歳未満という形になりますので。

- 田原委員 新規登録ですよ。
- 始関子ども企画課長 新たに登録された人数です。累計でいきますと11万3,500ほどになります。
- 田原委員 毎年これぐらいの人たちが増えてきているわけですから。
- 岩切会長 事務局のほうは、登録者についてはどのような評価をされているんですか。
- 始関子ども企画課長 登録者数については、たしか前年度は少し下がった数字になっております。今年度は上がっているということで、昨年もちよっと申し上げたんですが、千葉市の人口、毎年この対象年齢が1,000人ずつぐらい減っている状況の中で、新たな登録者数が増えているということは、やっぱりこの事業者がいろんなところに出向いて、足を運んで、いろんな子どもたちをこの施設に呼び込んでいるということで評価しておりますので、これについてはやはり増加してもらうのが一番いいかなと考えてはおります。
- 岩切会長 そうですね。私も1日当たりの入館者とか、そういうところをちょっと見てみたんですが、結構少ないときは少ないんですよ。低年齢のお子さんの活用等で頑張っているというのはわかるんですけども、施設を考えた場合、まだまだ活用の余地はあるかなという感じはしますので、登録者については、ここで満足しないで、もう少し頑張してほしいという気持ちがありますが、皆様それでよろしいですかね。
- 田原委員 そういうことを入れておけば、その意味で頑張るんじゃないですか。
- 岩切会長 あと自主事業については、ジャズダンス、そのほかいろいろと御指摘があったんですが、確かにこれも改善されていますよね。だから、頑張っていることは十分認めるわけなんですけれども、先ほど委員さんからもありましたように、利用者の低年齢化等を図っております。これは分けるかどうかは検討しないといけないですが、自主事業についてはさらに内容の充実を図ってもらいたいというのは当然なんですけど、それにあわせて、やっぱり利用者の低年齢化がありますね。こういうこともありますので、安全の確保とか、危機管理とか、トイレの盗撮とか、そういうようなのもちょっと見ましたので。不審者が入りにくい構造だということは書いてございましたけれども、入りにくいといっても、そういう人は何とかして入ってくるわけですので、そういうような危機管理には十分注意してほしいということです。そのあたりは、今回地震もありましたので、そういう防災の面も含めて、対象が子どもですので、ぜひともそのところは、個々十分やっているとは思いますが、そのあたりを少し意見を述べておけばどうかと思います。これは意見というより要望ですよ。
- あと、財務状況については特段問題はないというお話がありましたが、これまでずっと意見を述べてきた単体の詳細が把握できるようにという、このところはどうしましょう。
- 田原委員 備考欄があるということは、多分詳細が分かっているということですよ。随分これも改善されたのかなと思うんですけども。
- 松崎委員 できれば単体で黒字になったほうがいいと思うので。これだとどういふふう

にしていくか、改善が見えにくいのかなと思うんですけれども、どうなのでしょう。

○小栗委員 改善が見えにくい状況ですが、引き続き出してもらえるようお願いすることを前提に、現時点では他の情報も組み合わせて総合的に判断せざるを得ないと思います。

○岩切会長 一応指定管理者の財務状況を的確に把握するという事は非常に重要な部分だと思いますので、今まで出してもらえていないんですが、まだ1年、本年度の分がありますし、本年度の改善が図られるかもしれませんので、再度これは同様に述べておきましょうか。それでよろしいですか。

(各委員了承)

○岩切会長 では、そういうことで、来館者の増加を評価、全体的な事業の管理運営については評価をします。おおむね良好に運営が行われていると。それから、来館者が大幅に目標を達成して過去最高になったという点を評価するという事、しかし、登録者については一層努力してほしいということですね。

それから、自主事業は一層の創意工夫をしてほしいんだけど、それにあわせて、利用者が低年齢化していることもあるので、安全の確保とか危機管理、この点には十分配慮して事業を進めてほしいということですね。

それから、財務状況については、特段の問題はないと思われるんですが、事業単体の収支状況が把握できるように改善を図ってほしいという内容でよろしいですか。

(各委員了承)

○岩切会長 では、そういうことでまとめてまいりたいと思います。今は雑駁な表現でしたので、これを事務局と私で再度文言等を調整して、委員さん方にお伝えしてということよろしいですか。

(各委員了承)

○岩切会長 では、そういうことで年度評価については進めたいと思います。事務局のほう、私の表現が曖昧なところがありますが、斟酌していただいて、文言の調整をお願いいたします。

それでは次に、総合評価について進めていきたいと思います。所管課のほうから御説明をお願いいたします。

○始関こども企画課長 続きまして、総合評価について御説明させていただきます。お配りしましたA3の拡大した総合評価シートをごらんいただければと思います。

まず右上評価対象期間でございますが、今期の指定管理が始まりました平成24年4月から本年3月末までとなっております。基本情報につきましては省略させていただきます。総合評価について御説明させていただきます。

こちらにつきましては、指定管理が始まりました平成24年度からの評価を積み上げた結果となっております。本事業者につきましては、これまでの過年度の評価では、毎年度A評価、おおむね計画どおり、良好な管理運営が行われたとの評価をいただいておりますことから、結果からまいりますと総合評価をA評価としてございます。

各項目でございますが、まず市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理につきましては、関係法令の遵守等、おおむね計画どおりの実績・成果が認められ、また、アンケ

ート調査等から利用者のニーズを把握し、改善を図りつつ、おおむね計画どおりの実績・成果を得られたということでA評価を与えてございます。

次に、施設の効用の発揮、施設管理能力では、利用者数は年々増加傾向にございまして、記録を更新し、市民サービスの向上が図られていると評価し、S評価を与えてございます。

最後に、管理経費の縮減でございしますが、人件費の部分では、計画額を上回る支出がございましたが、こちらは子どもを対象とした施設であることから、利用料を徴収しておりませんので、指定管理委託料と各講座の実費徴収が収入源となっております。経費縮減のためには、見積もり段階での支出項目の精査がより求められるという点はございますが、利用者への配慮から、館内の見回り等を充実させたり、これまで講座の見直しなどを図りつつ、利用者の満足度の向上が見られ、利用者の拡大につながったことから、公募の段階の計画から、おおむね予定どおりの中での施設運営を行っていただいていると判断し、A評価といたしました。

以上のことから、総合評価をA評価とし、事務局案として提出させていただきました。

(2)の次期指定管理者の選定に向けての意見につきましては、この総合評価並びに施設の内容なども勘案いたしまして、次期指定管理者の選定に向けて特に留意すべき事項等について、御意見を頂戴したいと考えております。

もう1枚、2ー7、総合評価を行う際の参考といたしまして、平成24年度からの施設の利用状況、利用者意見への対応状況、それから24年度から27年度までの収入、支出の状況、管理経費の縮減への取り組みなどを記載してございます。

私からの説明は以上でございまして、よろしく願いいたします。

○岩切会長 ありがとうございます。

今御説明をいただきましたけれども、A評価ということで総合評価が出ているわけですが、本年度の評価は入っておりませんので、4年間の評価ということになるんですね。4年間なんだけれども、次期指定管理者の選定に向けてということで、もうまとめに入らなければいけないということです。今年の状況までは把握できないわけですが、総合評価Aということで、市当局の作成されました評価の妥当性について、委員の皆様方の御意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。お1人ずつ伺えればと思います。

○鶴見副会長 27年度を単体として見るとかなりいいんですけれども、4年間ということで、総合的に見ると飛び抜けていいということではないと思うので、Aという評価は妥当ではないかと思います。今後としては、27年度達成した利用者数の増加についての維持を求めたいということの特段言っておきたいと思います。

○岩切会長 分かりました。評価については御意見を伺うだけでいいですよ。

○始関こども企画課長 はい。あとは次期指定管理者の選定に向けての御意見をお伺いいたします。

○岩切会長 集約するということですね。

ほかの委員さん方、どうでしょうか。

○田原委員 24年度からずっと縷々申し上げてきている段階を改善されていると思われま  
すので、私はA評価でいいと思います。

○松崎委員 私も改善されているのかなと思うので、いいと思います。

○小栗委員 私も利用者を増やす努力が実を結んでいますので、A評価でいいのかなと思  
います。

○岩切会長 わかりました。

○田原委員 先生、Sをもらうのは大変だよ。

○岩切会長 そうですね。Sは大変ですね。

それでは、委員さん方の御意見、今まで不十分な部分もあったけれども、年々改善を  
されて、特に昨年度、27年度は非常にいい評価を得られるような状況になっております  
ので、市当局のA評価というのは妥当ではないかということなんですが、委員の皆さん、  
それでよろしいですか。

(各委員了承)

○岩切会長 では、そういうことでよろしくお願ひします。

私は、次期指定管理者の選定に向けた4年間の意見というのは取りまとめたことがな  
いんですが、これは施設の管理運営についての意見ということですか。このアクティオ  
さんに対するということではないですよ。

○始関こども企画課長 ではないです。こういった点について注意しながら、次の選定に  
当たってほしいというような。

○岩切会長 分かりました。ということでございますので、次期の選定に間もなく入ります  
ので、そういう点で、ぜひ施設のサービス水準の向上ですとか、あるいは業務の効率  
化などの観点から、次期指定管理者の選定に向けての意見をまとめたいと思いますが、  
お気づきの点があったらひとつ忌憚のないところを出していただけますでしょうか。

○始関こども企画課長 参考までに前回の総合評価での御意見なんですが、7点ほどいた  
だいております。

まずは利用者とスタッフとの信頼関係の維持という観点から、スタッフの雇用の継続  
に配慮すべきであると。それから2つ目に、災害対応、防災対策の充実に配慮すべきで  
ある。3つ目に、施設の目的、特性を踏まえ、経費縮減に隔たりがないよう満足な配点  
基準を設定すべきである。4つ目に、より広い地域の市民がサービスを楽しむことが  
できるよう広報の充実等の創意工夫により新規利用者の開拓を図るべきである。5つ目  
に、子育て支援館、科学館との連携によるきぼ一層の活性化を図るべきである。6つ目  
に、本社管理経費の削減という観点から、地元事業者の応募を促すべきである。7つ目  
に、不登校児童や児童虐待防止等に対応するため、専門的な見識を有する  
スタッフを配置すべきである。以上7点の御意見をいただいております。

○岩切会長 というようなことなんですが、ぜひ委員の皆さん方から出していただければ  
と思います。いかがでしょうか。

○田原委員 虐待とかは、私が多分言ったんじゃないかと思う。私が関係している子で、  
不登校の子でここを利用している子がいたんですよ。不登校なんだけれども、きぼ一層



に来ていたというときに、専門知識のある方がいていただいたほうがいいよということ  
を多分申し上げたと思うんですね。だから、今でも、不登校の子でもここには来れるよ  
という子が多分いると思うんですね。不登校の子どもたちも来ているんですものね。  
ですから、そういうときに、やっぱり専門職員がいていただいたほうが、子どもたち  
にとっては相談もしやすいだろうしということ。そういう専門職員はここにはいません  
よね。学校の先生はたくさんいらっしゃいますけれども、それを兼ねていらっしゃるの  
かなと思いますけれども。

○始関子ども企画課長 お配りしてございます資料の2—3の事業計画書の中の3枚目  
になりますが、ここに職員の資格ということで載せてはいるんですが、児童指導員であ  
ったりというところで見ると、その専門という形での職員は現在は配置されてお  
りません。

○田原委員 難しいという御意見でしたものね。そういう人を入れるというのは専門職  
だから難しいでしょう、でも、経験上、こういうことができる人がたくさんいると思  
いますという御意見だと思うんですね。先生方でもそういうことを経験された方がら  
っしゃれば、サポート体制になるから。不登校の子がここに来られるということはい  
いんじゃないかと思うんですね。

○始関子ども企画課長 そうですね。居場所がなくて困る、ひきこもりになったりとい  
うことを考えると、居場所になれば、外に出るきっかけになってくれればいかな  
とは思いますが。

○岩切会長 これについては、今現在、進められていますので、入れるとすれば、継続  
ですよ。

○田原委員 そうですね。それはもうずっと続けていただきたいなというのがあります  
ね。

○岩切会長 先ほど小栗委員からあったんですが、例えばスクールソーシャルワーカー  
という人たちになるとなかなか難しくなると思うんですね。やっぱりその辺はまた  
経費の問題とかが入ってきますので。

○田原委員 経験上でね。

○小栗委員 今現事業者がやっている利用者増へのいろんな取り組みを必ずその次の  
指定管理者にちゃんと引き継いでもらうということが大切だと思います。

○田原委員 立候補者はこれ以上のことをやっていただかない限りは、次の指定  
管理者には向かないですよ。

○岩切会長 はい。では、そのあたりで1つ御意見をいただいたんですが、ほかはい  
かがでしょうか。

○松崎委員 利用者全体は増えているんですけども、中学、高校生が減少している  
ようです。前回のときにもちょっとありましたように、利用者の範囲をより拡大を  
していくような、広範囲が利用できるようなというのが1つ必要かなと思います。  
さらに、未就学と保護者の数がすごく増えているので、多分時間帯も違うんだ  
と思うんですけども、そこに入っている人の層が少し違ってきているのかなと。  
多分この交流館のよい点は、大人ではなくて中高生がメインということなので、  
中高生が利用しにくくなってしまうと、ちょっとそれは問題かなと思うので、  
そのすみ分け等を考えていただけたらな

思います。

先ほど田原委員からありましたように、保護者の啓蒙というのは、多分少ないときは必要なかったんだと思うんですけども、置いていってしまうとか、それから目を離してしまうとかということで、今回の2の(3)の管理運営の執行体制で緊急時の対応というところがあると思うんですけども、これまで以上にもう少しより細かいというか、果たして未就学のときはカウンターで受付するだけでいいのかというところもあると思うので、そういう形ももう少しお考えいただいて。未就学児の利用に関する規定であるとか、未就学児利用に関する利用形態、どういうふうに安全対策をするのかというところも考えていただいたほうが、いいのかなという気はいたします。

以上です。

○田原委員 4年間で親の考えが変わってきていますからね。数がすごく増えているんですよ。だから、やっぱり相談したりなんかするためには、ここが一番利用しやすい場所かなというのもある。

○小栗委員 この施設では、障害者だとか、病児等の受け入れも行っているのでしょうか？

○始関こども企画課長 障害者の受け入れということで、事業者のほうでいろんなイベント等を開催して受け入れはしております。ただ、病児、病後児となってしまうと、医師とか看護師がいるわけではないので、そこはやってはいないです。

○小栗委員 障害者の子どもとかは、少なからず一定数の子がいますので、例えばこういう施設じゃないと体験できないようなことだとかを何か体験させてあげたりだとか、いろいろできるのではないかと個人的には思います。

○始関こども企画課長 提案の中では、今、絵を描きながら何かやるような事業をたしか展開していたはずですよ。

○田原委員 自主事業の中で。

○始関こども企画課長 はい。

○岩切会長 これは特別支援学校なんかの利用ってあるんですか。

○始関こども企画課長 学校単位でということになるとちょっと。

○岩切会長 実績は見なかったような気がするんですけども、ありましたか。

○始関こども企画課長 先ほどの中では、館長も元校長先生ということもあって、いろんな学校にお声がけをして、社会科見学などで御利用いただいていますので、特別支援学校についても、ちょっと今明確にお答えできないんですが、たしか来ていただいていたと思います。

○岩切会長 わかりました。そのあたりも1つですね。

○小栗委員 ここでもう1つ言いたかったのはその広報の充実です。

○岩切会長 わかりました。何点か挙がりましたが、ほかはいかがですか。

○鶴見副会長 あとは財務の透明性ということで、4年間ずっと赤字でしたので、それについて、利益を上げろというわけじゃないですけども、なるべく赤字を出さないところをお願いしたいというのを入れておいていただければと思います。

○岩切会長 はい。

○田原委員 自主事業をやらなければ赤字にならないという感じがありますよね。自主事業をすれば、結果的に赤字になる。だから、自主事業をやらないうつたら、当然発展しませんものね。自主事業がやっぱり赤字にならないような計画を立てなきゃいけないということ、参加者がいっぱいいなきゃ自主事業は赤字ですものね。

○小栗委員 ホームページとかSNSを使った、より一層の情報発信に力を入れていただけると、より一層の利用者増につながるんじゃないかと思います。

○田原委員 広報の充実は随分図っていますよね。

○始関子ども企画課長 そうですね。いろんなメディアを使いながらやっていただいていますし、また実際にいろいろと足を運んでいます。

○田原委員 出前講座みたいなのをやっていますから。

○始関子ども企画課長 先ほどの件なんです、県立袖ヶ浦特別支援学校が校外学習として御利用をいただいています。

○岩切会長 そうですか。わかりました。

皆さん方、よろしいですか。ちょっと順不動になりますけれども、今まで出ました皆さん方の意見は、不登校等の子どもたちの居場所としての活用のために有資格者を配置するなどしていただいたんですが、これを今後ともひとつ継続してほしいということが1点出ました。

それから2点目は、低年齢のお子さん方への対応で利用者も増加してきているんですけども、そういう点からいうと、高校生の利用等のいろいろ工夫をすれば、このあたりの改善も考えられるということで、低年齢層の開拓には私も非常に感心したんですけども、こういうふうな工夫をして、幼児から高校生まで満遍なく活用されるような施設の効率的な運用を目指してほしいということが2点目だと思います。

3点目は、やはり安全対策、これは防災も含めて、前回もあったようですけども、緊急時の対応、特に未就学児童、幼児等の利用もありますので、そういう防災安全対策を充実してほしい、配慮してほしいということです。

それから、利用者層の拡大の中で、特別支援学校でありますとか、いわゆる障害児童生徒への利用の拡大を図るように、これは後の広報でも関連してくるわけなんです、そういうところで利用者層の拡大を図ってほしい、図るべきだということです。

それから、それとも関連するんですが、ホームページとかSNSの利用など、広報の充実を期してほしいということです。

それから、財務の透明性、ずっと意見を申してきたんですが、改善が図られなかった部分でございますので、財務の一層の透明性を図ってほしいと。その際には、自主事業の問題もあるんですけども、収支のバランスがとれるようにしてほしいというようなことが委員の皆さんから出たんじゃないかと思います。

それから、私のほうでぜひお願いしたいなと思っているのは、これを読んでおりましたら、利用者の言葉の中に、近くにこんな便利な施設があつてということが書いてありました。大変助かっているということが利用者からあつたんですけども、この施設はそういう身近な地域のいわゆる便利施設という視点ではだめなんだと思うんですね。そ

れは必要なことですが、それだけでは、大変立派な施設ですので、いわゆる全市の子ども健全な遊び場、居場所としての施設にさらに充実を図っていかないと、これだけの施設ですので、単に近くの方が便利だからと来るだけの施設でとどまっちゃいけないんじゃないかということです。中央区、稲毛区あたりからは利用者がかなり多いようですし、市外もおりますけれども、さらに市全体で活用できるような施設に、さらにそういう施設としてもっていかねばいけないのではないかと思いますので、かなりの経費を出しておりますし、そのあたりを私は1つお願いしたいなと思っております。

それから、利用者、登録者、自主事業等についてはかなり充実してきておりますので、さらに充実発展をさせてもらいたいということで意見を述べたいと思いますが、いかがでしょうか。かなりたくさん出まして、文言は集約できるものもあるかなという感じがいたしますが、そういうような内容で意見としてまとめたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(各委員了承)

○岩切会長 ちょっと雑駁で申しわけございません。そうしましたら、これにつきまして事務局と私で内容については調整をさせていただきます、委員の皆さんに後で御承認いただくという形にしたいと思うんですが、よろしいですか。

(各委員了承)

○岩切会長 ありがとうございます。所管課におかれましては、今の意見、趣旨を酌んでいただいて、まとめていただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、続いて千葉市子育て支援館の年度評価につきまして所管課より御説明をお願いいたします。

○内山幼保支援課長 幼保支援課の内山でございます。よろしく願いいたします。失礼して座って説明させていただきます。

A3のほうの資料の3-2、指定管理者評価シートをごらんください。まず、1の基本情報でございますが、施設名は千葉市子育て支援館でございます。指定管理者は公益社団法人千葉市民間保育園協議会でございます、指定期間につきましては平成24年4月1日から平成29年3月31日まででございます。今回は2期目の4年目の評価ということになります。

続きまして、2の管理運営の実績でございますが、(1)の主な実施事業でございますけれども、支援館の維持管理業務、それから地域子育て支援センター事業、そしてファミリー・サポート・センター事業となっております。自主事業につきましては②でございますけれども、こちらは自主企画による育児イベント、講座、研修等となっております。

続きまして、(2)の利用状況でございます。①の利用者数でございますけれども、平成27年度は7万7,561人ございまして、平成26年度の7万4,508人と比較いたしますと104.1%、3,053人の増となっております。これにつきましては、千葉市の就学前児童人口の減少ですとか、保育所入所児童の増が見られる中、昨年度に比べて、ゼロ歳児の児童と保護者の利用が増えたことが主な要因となっております。ゼロ歳児の利用は、前年

度比1,402人増えまして、過去最高の1万241人となっております。保護者の利用も前年度費で2,094人の増加となっております。

続きまして、②の相談件数でございますけれども、昨年度より19件多い2,531件となっております。

③のファミリー・サポート・センター事業の会員数でございますけれども、昨年度より223人多い5,296人となっております。

続きまして、(3)の収支状況でございます。まず、①の収入実績でございますけれども、自主事業の決算額が11万7,000円と計画額よりも7万1,000円少なくなっております。こちらにつきましては、講座の参加者から参加の負担金を徴収してございますけれども、講座の開催が中止になったことなどにより、徴収する負担金が減少したことが理由となっております。その他の収入が計画額よりも上回った要因といたしましては、自動販売機の電気使用料や講演会の講師謝礼によるものが増えたことによるものでございます。

続きまして、②の支出実績でございます。対計画比といたしまして一番大きく差が生じているものは、計画比の26.2%となった管理費でございます。館内のおもちゃの破損による取りかえなどを想定しておりましたけれども、破損するおもちゃが少なかったことなどが要因となっております。

最後に、③の収支実績でございますが、収入から支出を差し引いた金額になりますけれども、こちらが135万5,000円の黒字となっており、おおむね適正に運営されているものと考えております。

次に、(4)の指定管理者が行った処分の件数でございますが、こちらにつきましては271件となっております。これは多目的室の使用の許可を行ったものでございます。

続きまして、(5)の市への不服申立てでございますけれども、昨年に引き続き、こちらはございませんでした。

続きまして、ページをめくっていただきまして、(6)情報公開の状況につきましても同様の状況となっております。

次に、3の利用者ニーズ・満足度等の把握でございますが、これも昨年同様に、指定管理者がさまざまな方法によりましてアンケートを実施しております。1つ目といたしまして、初めて来館する方向けに配布をしているアンケート、2つ目といたしまして、来館者に配布するもの、3つ目といたしまして、ひろば、イベントに参加した方、4つ目といたしまして、館内に設置したポストに投函していただく、この4つの方法によりましてアンケートを実施しております。これらの方法によりまして、昨年度より171件多い2,298件のアンケートを回収してございます。

②の調査の結果でございますが、回答者の属性ですけれども、おおむね20代から40代の子育て中の女性がほとんどでございます。目的といたしましては、親子で遊ぶためが最も多く61.5%、続きまして友達をつくるためが14.5%、情報を得るためが8.4%となっております。よく利用するコーナーですけれども、プレイホールが73.4%、ままごとコーナーが47.6%、親子サロンが23.7%、創作コーナーが23.0%、絵本コーナーが22.5%、乳児室が20.7%などとなっております。(3)のアンケートの中で5段階評価のうち「大変

よい」と「よい」と回答いただいたものにつきましては、受付でのスタッフの対応が95.9%、ホール内でのスタッフの対応が93.6%となっております。スタッフに気軽に相談しやすい雰囲気という点につきましては、81.4%の方からよい評価をいただいているところでございます。全体的に、子どもの遊び場、親同士の交流の場としてさまざまなイベントに参加していただいている状況が見られたところでございます。

③のアンケートに寄せられました主な意見でございます。駐車場料金の割引及び無料の要望が多数ございました。これにつきましては、支援館は利用料金が無料であることから、御理解を求めているところでございます。また、きぼー内のスーパーを利用した際の駐車場料金の割引案内等もしているところでございます。ほかにも、電子レンジの設置要望ですとか、イベント参加枠の拡大の要望などの御意見があったところでございます。

なお、支援館やその指定管理者に対して市に寄せられた意見や苦情はございませんでした。

続きまして、3ページでございますが、4の指定管理者による自己評価でございますが、まず、提案内容の達成状況ですけれども、管理運営の基準や計画等に基づき、適正に各事業に取り組んだことから、来館者の増という実績を残すことができた。来館者を増やすため、前年の来館者の評価を踏まえ、これは感染症予防のために使用済みのおもちゃの回収ボックスを設置するなどしておるんですけれども、日々改善、努力しているなどとなっております。

次に、利用者意見に対する評価ですけれども、年4回実施している利用者アンケート結果では、お子様が楽しく遊んでいると回答された方が91%と肯定的な評価を得ております。それ以外にも、スタッフの対応を初め、施設の利用満足度も高い傾向となっている。また、利用者からの御意見に対して、職員会議等で検討、協議を行い、共通理解を深めている。これらを総合的に見ておおむね良好ということでございます。

次に、5の市による評価でございますけれども、本年度はSと評価をさせていただきました。所見でございますが、指定管理者として引き続き指定された第2期の4年目でございます。利用者数は、計画の目標数値7万5,300人を上回る7万7,561人となりまして、対前年度比で104.1%、3,053人増加いたしました。これは、先ほど申し上げましたとおり、利用者増へのマイナス要因、これは就学前児童数の減少ですとか、保育所等の入所児童数の増がある中での結果であります。また、利用者アンケートの結果から安定した満足度が得られていることがわかり、この点も評価できるところでございます。事業の広報、PR活動におきましては、引き続き、生涯大学校での子育て孫育て講演会等の講師として活動するなど、施設の知名度、認知度を上げる取り組みを行うほか、新たなイベントとして、参加者からも大変好評をいただきました市役所楽団ミニコンサートなども企画し、実施しております。地域子育て拠点施設の基幹施設といたしましては、他の拠点施設の統計の取りまとめですとか、翌月に実施する講座等の情報提供のほか、定期的な連絡会議等を開催する中で、他の施設職員に対し適切なアドバイスを行うなど、基幹施設としての役割を十分に果たしております。ファミリー・サポート・センター事

業につきましては、活動件数は昨年度比で649件下回る1万1,343件となりましたけれども、会員数は223人増の5,296人となっております。提供会員の増が22人と少ないことが懸念されますけれども、昨年度は新たに生涯大学校やことぶき大学校、老人クラブ指導者研修会での事業説明を行うなど、提供会員の増に向け積極的な広報活動も展開しております。今後の会員増のための活動として評価できるものであります。

なお、履行状況ですけれども、昨年度から評価が変わったものを御説明させていただきます。左側に、地域子育て支援センター基幹施設としての業務とございます。こちらの2つ目の項目の子育て支援関連施設に対する研修会等をごらんください。こちらにつきましては、研修を受講する職員にアンケートを行い、そのニーズに合わせた研修テーマを設定いたしまして、計画どおり4回の研修を実施しております。こちらにつきましては、提案では6回の研修とありましたので、評価を1つ下げてください。

次に、その2つ下にあります中項目の利用者サービスの向上、利用しやすい環境づくりのところをごらんください。上から2番目、利用実績でございます。先ほどから申し上げておりますとおり、昨年度の利用者につきましては、目標値と一昨年度の利用者数を上回っております。こちらにつきましては評価を1つ上げてございます。

次に、その1つ下にあります受託事業の効率的な実施・創意工夫をごらんください。上から2番目のあそびの講座の開催でございますが、あそびの講座につきましては、提案書どおり講座の実施が行われたほか、おはなし会を285回開催しております。7,299人が参加しております。こちらについては評価を1つ上げてございます。

次に、ページをめくっていただきまして、4ページの2番目の項目、ファミリー・サポート・センター事業でございますが、1つ目の管理体制をごらんください。会員数の増加に対応するために、提案書を超越する職員配置を行いまして増加する事務に対応いたしました。こちらについては評価を1つ上げてございます。

以上が評価が変わったところでございます。

その結果、全体といたしましては93点、項目が38項目ございますので、平均ですと2.4点、内訳で3点が17項目、2点が21項目、平均で2.4点ということでございます。5年連続で2.4点ということと、年間利用者数が過去最高である平成24年度の8万3,364人にはちょっと及ばなかったものの、2年連続の減から上昇に転じまして、昨年比3,053人増の7万7,561人となったことや、提案時での目標人数7万5,300人を上回っているということを総合的に考えまして、評価といたしましてはSと評価いたしましたところでございます。

私からの説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○岩切会長 ありがとうございます。

S評価ということで、初めてこういう評価を拝見するんですけども、ただいま事務局から説明がございました。委員の皆さんから御意見、御質問等がありましたら、どうぞ。

○鶴見副会長 自主事業についてなんですけれども、回数についてはかなり提案を上回る回数をやられているということなんですけれども、収入、支出を見ると十分消化し切れていないように見えるんですが、この差というのは一体どういうところから生じている

んでしょうか。

○事務局長 それについては、予算を立てた計画の際はもう少し回数の増を見込んでいたんですけれども、講師の都合等で急遽取りやめになったものが幾つかございまして、その関係で響いたところもございまして。また、参加者の方が乳幼児ですから、急遽キャンセルということもございまして、そういったところから差が生じてしまっております。

○鶴見副会長 わかりました。

○田原委員 収入実績のところ。自動販売機の売り上げがすごくよかったということですか。

○事務局長 自動販売機の電気代の収入が、予定値に比べると多かったということです。

○田原委員 すごく売れたと。もうかるんですか。

○事務局長 計画の中で完全に見越して入れていなかった面があって、それで多く見えているところもございまして。

○岩切会長 S評価をいただいているぐらいですので、余り指摘するようなところは。

○田原委員 頑張っていますよね。

○岩切会長 頑張っていますね。

○田原委員 気に入ったのは、おじいさん、孫、その講座に講師を派遣する、これはすごくいいですね。

○岩切会長 どこですか。

○田原委員 生涯大学校とか、そういうところに行って、子育て、孫育ての論議をやっているということは、私たちの時代にはちょうどいいかなと思いますね。こういうこともやっていらっしゃるということはすごいことだと思いますね。

○岩切会長 広報活動ですか。

○田原委員 ええ。広報活動の中で、館長が生涯大学校の子育て孫育ての講座に出て、お話をされたということですね。

○内山幼保支援課長 所管といたしましても、できましたら、祖父母の子育てですとか、あと男性の利用ですとか、そういったところも力を入れていきたいと考えてございます。

○田原委員 昔の考えで孫を育てたら絶対違いますね。だから、やっぱりここら辺で学習を、老人を教えなきゃいけない。いいことですね。

○岩切会長 ありがとうございます。

小栗さん、財務諸表についてはいかがでございましょう。

○小栗委員 昨年と引き続き、特に悪い状況ありませんが、千葉市民間保育園協議会の財産目録上、長期貸付金というのがありますが、これは何でしょうか？

○岩切会長 何かおわかりになることはありますか。

○佐々木こども未来部長 ちょっと確認をさせていただければと思います。申しわけありません。

○岩切会長 わかりました。

○岩切会長 松寄委員さん、何かございますか。特にありませんか。

○松寄委員 はい。



○岩切会長 それでは、ちょっと時間も押しておりますが、非常に頑張って取り組んでおられますので、それは評価することですので、例年、管理運営は良好だということで意見をまとめているんですけども、市当局のS評価に準じまして、特に良好な管理運営が行われているということで、市当局の評価に合わせたいと思いますが、いかがでございますか。

(各委員了承)

○岩切会長 それでは、市による評価のとおり、特に良好な管理運営が行われていると認められるということにしたいと思います。

そのほか、余り委員の皆さんから意見は出なかったんですけども、来館者数が目標数値を上回っておりますし、アンケート調査による利用者の満足度も非常に高いので、この点も十分評価できるということだと思われま。それから、全てを書くかどうかというのはありますが、こちらからすれば委託なんですが、受託事業について管理運営の基準を上回る事業を実施していたり、あるいは提案を上回る講座を実施するなど、非常に自主事業への精力的な取り組みが評価できるということだと思われま。S評価ということですので、一応いい点も意見として述べておいたほうがよろしいかなと思われま。

あと、先ほど委員さんのほうからありましたけれども、広報、PR活動が非常に充実しているのではないかと、これもよろしいでしょうか。

(各委員了承)

○岩切会長 指定管理者の財務状況につきましては、現状において特段の問題はないということで、これは例年どおりよろしいでしょうか。

(各委員了承)

○岩切会長 そういうことで年度評価を委員会としての意見ということでまとめたいと思いますが、よろしゅうございませか。

(各委員了承)

○岩切会長 それでは、この点につきましても、また事務局と私で調整をさせていただきます、委員の皆さんに御承認いただくという形をとりたいと思われま。よろしくお願いいたします。

それでは、総合評価につきまして御説明をよろしくお願いいたします。

○内山幼保支援課長 それでは、資料の3-6をごらんください。こちらの評価につきましては、4年間の指定期間中の評価となっております。期間中の評価につきましては、平成24年度から26年度までおおむね仕様、事業計画どおりとするA評価が3年続いておられまして、平成27年度は仕様、事業計画を超える実績・成果が認められるということで、S評価としたところでございませ。このことから、総合評価といたしましてはA評価とさせていただきます。

それぞれの評価項目をごらんいただきますと、SとAが混在する結果となっております、市民の平等な利用の確保ですとか、市民サービスの向上、受託事業の効率的な実施といった項目につきましては、事業計画を超える実績・成果が見られるものの、施設の効用の発揮ですとか、経費の縮減といった意味合いでは、自主事業の効率的な実施や

その見積もりの妥当性等に改善の余地があるものと考えまして、おおむね事業計画どおりの実績や成果が認められたと考えたところでございます。

説明は以上となります。

○岩切会長 ありがとうございます。

それでは、一通り御説明いただきましたけれども、子育て支援館の総合評価につきまして、市当局の作成しました評価の妥当性につきまして何か意見がありましたら、お願いいたします。

○鶴見副会長 総合的に見ればよくやっていたというところで、今年はそれが顕著だと思いますけれども、4年間の総合評価ということになれば、かつてA、A、Aと来ていることですので、総合評価Aもやむを得ないのかなと思います。

○岩切会長 妥当だということですね。

ほかの委員さん方はいかがですか。よろしいですか。

○田原委員 単年度はSでも、相対的にいくとAだということでしょう。

○岩切会長 そうですね。Sまで、ここまでよく展開していただいて、本年度も継続していただけたと思います。

○田原委員 Sまで行っているんですね。

○岩切会長 はい。それでは、これについて委員からの意見は、これは妥当な評価であるということでございます。

続きまして、この委員会として、施設のサービス水準の向上ですとか、あるいは業務の効率化などの観点から、次期指定管理者の選定に向けての意見ということでいただきたいんですけども、いかがでございましょうか。

○内山幼保支援課長 前回の意見を参考にちょっと述べさせていただきます。

全部で6点ございまして、1つ目が、ノウハウの活用、利用者スタッフとの信頼関係の維持という観点から、スタッフの雇用の継続に配慮すべきである。2番目といたしまして、災害対応、防災対策の充実に配慮すべきである。3つ目といたしまして、施設の目的、特性を踏まえ、経費縮減に偏ることのないよう適切な配点基準を設定すべきである。4番目といたしまして、子育て支援施設の基幹施設であることに鑑み、新規利用者の開拓を図るとともに、子育て支援館を含めた各子育て支援施設が相互に広く活用されるための取り組みを促進すべきである。5つ目といたしまして、子ども交流館、科学館等の連携によるきぼーる全体の一層の活性化を図るべきである。最後、6番目といたしまして、指定管理者が提案した水準の自主事業が実施されるよう、制度上の工夫が必要であるということになってございます。

○岩切会長 前回かなり細かく意見を述べているんですが、かなり達成されてきておりますが、改めていかがでしょうか。

○田原委員 これだという提案するものも別にないですね。

○岩切会長 そうですね。先ほどの交流館のほうもそうなんですが、結局、今伺った前回の意見の中で、きぼーる全体の施設、全て子ども、児童生徒にかかわるような施設なんですけど、そういう全体の連携といいますか、それはいずれも要望があったようなんです

が、それについてはどういう状況なんですか。

○始関子ども企画課長 交流館と支援館につきましては、階が違うんですけども、今も行き来ができるように連携を図らせていただいています。実は交流館の中で一番利用が多いのがプレイルームになるんですけども、大型の遊具が入っているところなんですけど、その利用がかなり多くて、支援館からちょっと大きなお子さんを連れた保護者の方とかがいらっしゃるといことで今は連携を図っています。あと科学館については、両方にイベントのチラシであったり、パンフレットの配架等はさせていただいています。事業なんかにつきましても、特別にアトリウムでやるようなイベント情報なんかについても配架を全施設でするような形で連携を図っております。

○岩切会長 そちらあたりは今後、さらにという意味で、意見を入れた方がよいでしょうか。

○田原委員 科学館と連携がとれるように。

○岩切会長 男性の利用が非常に増えたのはどちら、交流館のほうでしたっけ。

○内山幼保支援課長 支援館もです。

○岩切会長 支援館もそうですか。そうすると、科学館にも行っていただいて、交流館、支援館、それぞれの利用を図ってもらうというのをお互いもう少し、今後の5年間の中で利用促進を図っていく観点というのはあるのかなと思うんですね。

これはほかの委員の皆さん方、いかがでございましょうか。

○田原委員 評価がいい結果が出ているので、難しい。悪ければいろいろ言えるという感じですね。なので、いいんじゃないですか。

○岩切会長 そうですね。私なりにちょっと考えてみたのは、ファミリー・サポート・センター事業です。この事業は、何となくはわかるんですけども、詳しくこの事業の中身が分かりませんが、非常に利用者は増えているんですけども、活動件数が思うように増加していかないという部分ですね。この部分というのは非常に難しい部分だと思うんですが、このあたりは対策を講じていくと何とか改善される、そういうことを意見として述べるのはいかがでしょうか。

○事務局 そのあたりは、実は非常にコアな利用者の方とか、例えば出産のときなどにお子さんの預かりをお願いするとか、兄弟でお願いする方がいらっしゃいまして、そういう場合に何百件と利用される方がある年に出たりすると、増減が出たりしてしまうんですね。ちょっとこの相互援助活動の件数自体では、はかり知れないところもございまして、基本的には必要な方に必要な援助活動ができる方をマッチングできている状態が保っておりますので、提供会員を増やしていくというのが、会の相互援助活動を円滑に行う上では重要なところなんです。

○岩切会長 わかりました。では、そのあたりを意見として述べていいわけですね。

○小栗委員 利用者の個人情報はどうに管理されているのでしょうか？市の監査で確認されているのでしょうか。

○田原委員 参加している人たちの。

○小栗委員 子どもや親等の個人情報、アンケートの結果も含めて、データベースになっ

ていますよね。

○事務局 データベースでもございまして、最初、会員登録で申請書も出していただきますので、紙ベースでもありまして、ファミリー・サポート・センターの情報管理の規定というのを設けまして、きちんと管理しております。

○田原委員 漏れるということも考えられますね。

○岩切会長 ちょっと心配になったということですね。

○田原委員 変わらなければいいけれども、変わったときにですね。

○佐々木こども未来部長 次期の管理者が変わった場合についての情報管理の徹底、この辺は必要であると考えておりますので、その辺はきっちりやっていきたいと思います。

○岩切会長 それでは、ちょっと時間も来てしまいましたが、ここまで充実した管理運営を進めてきていただいていますので、この後、これを継続していくということがむしろ難しいのかなと思いますけれども。管理運営業務が充実してきまして、1つは、地域子育て支援拠点施設としての役割を十分に発揮しているということですね。今後ですが、一層の市民ニーズの把握を行い、利用者サービスの向上に努めて、できれば来館者の一層の増加を図ってほしいということで、これまでの全てを評価するという形の意見なんですけど、そういう形で1点意見を述べたらと思います。

あと、先ほど交流館でもありましたけれども、防災ですとか、安全ですとか、危機管理、これについては十分に対策を講じていただきたいということですね。

それから、ファミリー・サポート・センター事業については、提供会員の増加等への対策を検討してほしいということですね。この部分だけにしておきたいと思います。

それから、個人情報はいかがいたしますか。

○小栗委員 これは別に子育て支援館に限らず、子ども交流館も含めて、どんどん拡大している中で、情報の管理のところをもう1回ちょっと振り返っていただくというのは確かに必要なと。

○岩切会長 これはここだけではないですね。子ども交流館もそうですね。

○小栗委員 子ども交流館も同じです。それから、きぼーる全体の話もです。

○岩切会長 では、個人情報の管理については十分な対応を図られたい、対策を講じる必要があるということです。

それからもう1つは、きぼーる全体の、科学館を含めた他施設との連携を十分に図って、それぞれの施設の来館者の増加を期していただきたいということによろしいですか。

(各委員了承)

○岩切会長 では、ちょっと私のまとめが、進行がまずかったところもありますが、長時間ありがとうございました。

それでは、これにつきましても事務局と私で調整をいたしまして、委員の皆さんに承認をいただくという形にしたいと思います。

それでは、以上で指定管理者の行った施設の管理に係る年度評価及び総合評価についての審議を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、次に議題の(2)ですが、「その他」ということですが、事務局ございますか。

○始関子ども企画課長 今後の予定につきまして2点御説明をさせていただきます。

本日、机上のほうに今後の予定という資料をお配りしてございます。まず1点目でございますけれども、本日委員の皆様に取りまとめていただきました御意見等につきましては、岩切会長から市長宛てに委員会の意見として答申をさせていただくこととなります。この委員会の答申を受けまして、各施設所管課が委員会の御意見を指定管理者評価シートに記載し、9月上旬ごろに市ホームページに掲載し、公表するとともに、指定管理者へ通知をさせていただきます。また、委員会の会議録及び委員会会長からの答申につきましても、同様に市ホームページで公開することとなります。公開の時期等が決まり次第、委員の皆様には御報告をさせていただきます。なお、今回の委員会の会議録につきましては、後日、委員の皆様には御確認をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

2点目に、本年度の委員会開催スケジュールにつきまして、現時点の案でございますが、簡単に御連絡をさせていただきます。次回は7月1日金曜日、指定管理者の募集条件、審査基準等につきまして御審議いただく予定でございます。第3回、第4回につきましては、10月に子ども交流館、子育て支援館、両施設の選定に係る御審議をお願いするものであり、以上、年4回を予定してございます。なお、委員会で選定した指定管理予定候補者につきましては、議案として議会に提出し、御審議をいただくものとなります。委員の皆様には御負担をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○岩切会長 ありがとうございます。以上のようにございますが、全体を通して何かありますか。大丈夫ですか。

それでは、特にないようでございますので、本日の委員会はこれで終了したいと思います。御協力、大変ありがとうございました。

では、事務局、何かございますか。

○事務局 それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了させていただきます。長時間にわたり、活発かつ慎重な御審議を賜りましてありがとうございました。お疲れさまでございました。